

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成25年10月10～15日に陸奥湾4定点で第1回付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、各地の出現数は図2のとおりです。小湊沖で3.8個/トン、久栗坂沖、川内沖、野辺地沖では0個/トンでした。

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりです。ザラボヤは久栗坂沖で1.1個/トン、マボヤは川内沖で0.8個/トン、オベリア類(通称「クサ」)は久栗坂沖で0.6個/トン、小湊沖で3.8個/トン見られました。

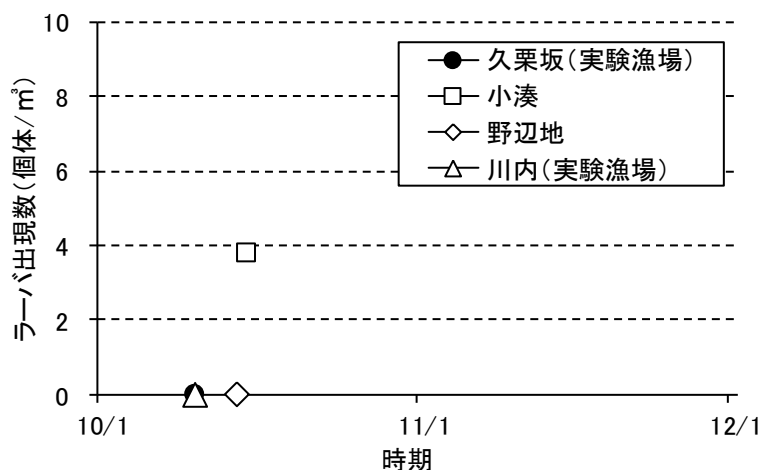


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

表1 その他付着生物のラーバ等の出現数

調査地点	調査月日	単位:個/トン			
		ザラボヤ	マボヤ	オベリア類	ネンエキボヤ
久栗坂沖	H25.10.10	1.1	0.0	0.6	0.0
小湊沖	H25.10.15	0.0	0.0	3.8	0.0
野辺地沖	H25.10.14	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H25.10.10	0.0	0.8	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの10月16日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(10/16)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	20.7	東田沢ブイ	-	横浜ブイ	20.1
蓬田ブイ	-	清水川ブイ	-	浜奥内ブイ	19.6
奥内ブイ	19.7	野辺地ブイ	-	川内ブイ	20.4
青森ブイ	20.3	東湾ブイ	20.3	脇野沢ブイ	20.4
浦田ブイ	-				

※奥内、浦田、野辺地、浜奥内は10m層、それ以外は15m層の値

3 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20°C以下になると産卵するため、これからラーバの出現数が増加する可能性があります。

また、オベリア類(クサ)、ネンエキボヤなども今後、出現数が増える可能性があります。

ラーバ情報を来年の3月にかけて月2回発行しますので、養殖作業の参考にしてください。

4 参考(トピックス)

ユウレイボヤの生態は以下のとおりです。

- ・大規模な産卵は初夏と秋の年2回で、秋の産卵時期は水温が20°C以下になる10月～11月。
- ・ユウレイボヤは雌雄同体で、産卵時期になると輸精管に白い精子が、輸卵管に赤い卵が確認できる。
- ・ラーバはオタマジャクシのような形で、大きさは1.2～1.3mm(写真1)。
- ・ラーバの浮遊期間は約2日と非常に短いため、広範囲に拡散しない。
- ・ラーバは光を嫌う性質があるため、表層よりも20m以深の中層に多い。
- ・目合いが大きく、単繊維(カエルまた)のネットほど付着し難い。

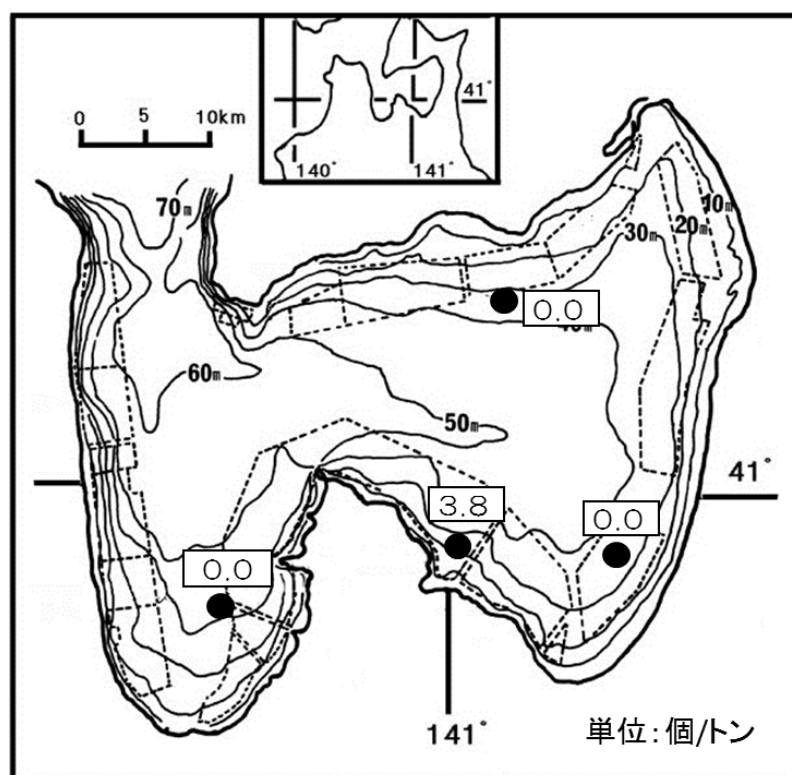


図2 調査地点別のユウレイボヤラーバ出現数



写真1 ユウレイボヤラーバ

